Creative Enzymes®

ラムダプロテインホスファターゼ、組換え

Cat. No. NATE-0990

Lot. No. (See product label)

はじめに

□明	λプロテインホスファターゼ（λ-PPase）は、リン酸化されたセリン、スレオニン、チロシン、ヒスチジン残基に□して活性を持つMn+2依存性のプロテインホスファターゼです。これは、バクテリオファージラムダのORF221オープンリーディングフレームからの221アミノ酸の産物です（1, 2）。λ-PPaseはE.coliで組換えタンパク質として発現され、高度に精製されました（2）。この製品は、タグなしの高品質な完全な酵素です。
用途	λ-PPaseは、タンパク質中のリン酸化されたセリン、スレオニン、チロシンおよびヒスチジン残基からリン酸基を放出するために使用できます（2）。異なるタンパク質は異なる速度で脱リン酸化されることに注意が必要です。最適反□温度は30°Cです。粗いサンプルでアッセイを行う際には、プロテアーゼ阻害剤カクテルの添加と最短のインキュベーション時間が望まれます。
別名	プロテインホスファターゼ 1F; PPM1F; CAMKP; CaMKPase; FEM-2; POPX2; hFEM-2; ラムダプロテインホスファターゼ; λ-PPase

製品情報

由来	E. coli
形態	400 U/ul λ-PPaseを50mM HEPES（pH 7.5）、100mM NaCl、2mM ジチオスレイトール、0.1 mM MnCl2、0.1mM EDTA、50% グリセロール、0.01% Brij 35に溶解。
純度	>98% SDS-PAGEによる
活性	400,000 U/mg (400 U/ul)
単位定義	1単位は、30°Cで1分間に1nmoleのp-ニトロフェニルリン酸を加水分解する酵素の量として定義されます。

保管・発送情報

保存方法	-80°Cで保管してください。凍結-解凍サイクルを繰り返さないようにしてください。